卒業おめでとう

選択肢

三年三組担任　光井裕貴

人生は、選択肢の連続です。人は一日に約二万回ご三万回選択をしています。皆さんはこれまで、友人関係、勉強、進路、部活動など、数えきれない選択を重ねてきました。正しかったと思える選択もあれば、迷いや後悔を感じた選択もあったと思います。脱走や反抗がどうしたのかは私にはわかりません。ただ、多くの方にご迷惑をお掛けしたのは間違いありません。しかし、そのすべてが皆さんの経験となり、今の姿を作っています。これから先の人生では、さらに大きな選択肢に向き合うことがあります。答えが一つではない場面もあります。不安や悩みが増え、いろんな壁に邪魔されることもあります。ただ、誰もその選択が正解かどうかはわからないのです。だからこそしっかり考え、時には相談し、最後は自分で選択してください。自分で選び、進んだ道には、必ず学びと成長があります。途中であきらめることは絶対にやめてください。諦めたらそこで試合終了です。皆さんの活躍を心から願っています。卒業おめでとう。

保護者の皆様、初めての担任で様々なところで迷惑をおかけいたしました。今こうして、二十五人が無事に卒業できるのは保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

ひとりがたり

三年五組担任　岩下　聡

三十六歳。大学を卒業してすぐこの学校に勤め始め、教員になって十三年、担任生活も十年目になった。若い頃の私は、「同じ仕事を十年もやっていれば、慣れなど無くなるのであろう」と思っていた。

しかし、とうやらそういうものでもないらしい。

昨年、二年五組の担任として教壇に立ったとき、「なんて反応のないクラスなのだ」と思ったことをよく覚えている。「私のこと嫌いなのか？」とも思った。これまで「うるさい」という注意は幾度となくしてきたが、「もっと喋ろうよ」と言わねばならない経験は初めてだった。これには悩んだ。

あの手この手で話させようとした。雰囲気作り、声掛け、時にはトランプまで使った――喋らねえ。何を投げても返ってこねえ。私の朝の「おはようー」は霧散し、話し合いでは皆が下を向いていた。

だが、次第に気づかされる。全体での発言はなくとも、誰もやりたがらない役にそっと立候補を伝えに来る生徒。欠席した友人を気遣い、提案を持ってくる生徒。発信が苦手なだけで、他者を慮ることのできる、優しい子たちなのだと。

私たちは様々な検定に、キャリアチャレンジに、プレゼンテーションに挑戦し、少しずつ前に進んだ。三年生になり、一生懸命考え、発言してくれた言葉で、黒く埋まっていく白板に胸が熱くなったことは忘れない。思えば、本当に楽しい一年間だった。

三年前の入学式で、「高校の三年間は驚くほど成長する」と伝えた。その時間をともに過ごせたこと、そして十年目の私をともに成長させてくれたことを、五組の仲間たちに心から感謝したい。ありがとう。そして、卒業おめでとう。

三年一組担任　林　真由美

共通テスト二日目、私は二度カラスの大群に遭遇した。試験の成就を願う中で、それは吉兆なのかもしれないと自然と受け止めていました。後になって、そう捉えた自分の思考そのものに意味深さを覚え、カラスについて思索したくなりました。日本では八咫烏として神の導きを司り、ある文化では太陽の化身として崇拝される一方、西洋文学では不吉さや知性の象徴として描かれることもあるカラス。その評価の振れ幅は、文化的表象のみならず、生態学的・地理的条件に根差すもので、それを探究することが面白いんだと鳥博士の岡本先生は語られました。文学的解釈に留まっていた私の視野が、一気に拡張された瞬間でした。

この三年間、私たちは「より良いクラスとは何か」「なぜ学ぶのか」を起点に、思考と対話を積み重ねてきました。ディベートを学び、議論は次第に深みを増しました。この議論と対話は私にとって無意識の思い込みが更新されていく、心躍る時間でした。こんな日常があったからこそ私たちを結びつけるsecond familyを形成したのだと思います。

物事を単線的に判断しないこと。固定化されたイメージや「大きな主語」に安易に委ねることなく、多角的視点をもつこと。短所は環境や文脈が変われば長所へと転化します。学び続け、オープンマインドで世界を見てください。文化によって忌避も崇敬もされるカラスのように、評価とは視点によって変容し得るのです。

皆さんはたくさんの視点を身につけてきました。

この三年間、思い通りにいかないことや、不安になる瞬間もあったと思います。それでも皆さんは、自分のペースで前に進み、自分の表現を探し続けてきました。今の姿を、家族や友人、先生、多くの人がずっと見守っていました。

最初に思い描いていた道と違っても、そこでしか出会えない景色があります。遠回に見える経験が、本当にやりたいことにつながることもあります。そして皆さんの表現が、誰かの心を癒したり、励ましたりする日がきっと来ます。

思い通りにいかないからこそ、人生は面白いものです。これからどんな出会いがあって、どんな未来が待っているのか、どうか楽しみにしていてください。好きなことに打ち込める環境に感謝しながら、新しい世界へ踏み出す皆さんを心から応援しています。

思い通りじゃないからこそ、面白い

三年二組担任　大塚正子

三年前、皆さんが入学した日に「これからの時代は、学び続けるカが大事だよ」と話しました。先が読めない社会の中で、自分で考え、判断し、表現する力は本当に強い武器になります。

芸術創造コースで過ごした日々は、まさにその力を育てる時間でした。音楽で耳を澄ませ、美術で角度を変えて見て、書道で色や書体を工夫するように、皆さんはたくさんの視点を身につけてきました。

この三年間、思い通りにいかないことや、不安になる瞬間もあったと思います。それでも皆さんは、自分のペースで前に進み、自分の表現を探し続けてきました。今の姿を、家族や友人、先生、多くの人がずっと見守っていました。

最初に思い描いていた道と違っても、そこでしか出会えない景色があります。遠回に見える経験が、本当にやりたいことにつながることもあります。そして皆さんの表現が、誰かの心を癒したり、励ましたりする日がきっと来ます。

思い通りにいかないからこそ、人生は面白いものです。これからどんな出会いがあって、どんな未来が待っているのか、どうか楽しみにしていてください。好きなことに打ち込める環境に感謝しながら、新しい世界へ踏み出す皆さんを心から応援しています。

みんなで

三年四組担任　泉　由美

いつも口癖のように言っていた言葉。毎朝教室に行き、全員揃っているかを確認する。朝から揃っていなくても、遅刻してでも登校してくれると ホッとしました。そして、朝からみんなが揃った日は本当にうれしくて、職員室に戻り、森先生に「今日四組全員います」と報告していました。「何をするにも、やっぱりクラス全員が揃っていてほしい」これが私の願いです。みんなそれぞれに色々な思いを抱えながらも、ちゃんと学校に来る。当たり前のようにいて、決して当たり前ではないことです。一人ひとりの思いを互いに認め合えるようになり、気づけば学校に来ることや、クラスみんなで何かを成し遂げることへのモチベーションも高まり、まとまりのある素晴らしいクラスになっていました。「先生、大変ぬ」といつも気にかけて声をかけてくれた四組のみんな。大変そうに見えていたかもしれないけれど、実は全然大変ではありませんでした。私が何がをしなくても、みんなは自分たちの力で考え、まとまって動いてくれていたからです。もちろん、最初からそうだったわけではありません。

一緒に過ごす中で、みんなの優しさや素直さ、周りを思いやる気持ちが育っていきました。

それができる四組のみんなのおかげで、私は充実した二年間を一緒に過ごすことができました。心から感謝しています。みんな、ありがとう。そして、卒業おめでとう。

三年六組のみんなへ

三年六組担任　中礼桃子

卒業おめでとう。二年生の始業式の日を今でも鮮明におぼえています。みんなの緊張した面持ちに、私も初担任でとても緊張していました。この二年間は楽しいことばかりではなかったかもしれません。それでもみんなが毎日学校に来てくれることが何より嬉しく、教室でみんなと会えることが楽しみでした。

私は「heart to heart」という言葉が好きです。高齢者の方に目線を合わせ優しく話しかける姿、子どもたちと楽しそうに遊んでいる姿、どうすれば上手くいくのか一生懸命考える姿、実習やえんがわ、学校行事、みんなが誰かと関わり、笑顔になっている姿を見るのが好きでした。

色んなことを乗り越える中で、クラスの中で優しさが連鎖していくようになりました。クラスでトラブルが起きると心配して相談に来てくれたり、一人になっている人に声を掛けてくれたり、自分たちでトラブルを解決したり、誰かを思って行動できる、誰とでも話せる、安心して過ごせるあたたかい六組を作ってくれてありがとう。

誰かの見えない優しさに気付けるようになりましたか？ここで学んだことを忘れずに次のステージでもみんなの優しさを大切な人に届けてください。みんなとともに過ごした一日一日が素敵な思い出です。六組の担任になれてよかったと心から思います。夢が叶ったら報告してください。二年間本当にありがとう。すっと応援しています。

今日は、華の金曜日！

三年七組担任　徳本康輝

七年ぶりの担任で、緊張と不安からスタートした日を思い出します。久しぶり過ぎて最初のホームルームで「このクラスをチームと思って指導します」と、昭和のスポ根みたいなことを保護者の前で堂々と言った自分が恥ずかしく、さぞ保護者の方々は不安だったことでしょう。案の定、「担任を変えてくれ」と、学年主任に訴えた生徒がいたそうです。（笑）二年生でクラスが変わり、まあまあ色々ありましたね。中々距離が縮まらないクラス。あの手この手で試しましたが、「学校、辞めようかな」が口癖みたいに言い出すし、「勉強せんちゃんがんばれ」と、「進路とか知らんし」とか、おいおいおいと突っ込みどころ満載でした。修学旅行前、クラスでの話し合いで初めてみんなが本音を言ってくれました。つになった瞬間でした。三年七組は「やる時はやれるクラス」と勝手に決めつけて、とにかく学校行事は担任もハマってやりました。準備はなかなか手伝えなかったけど、みんなが協力してくれたお陰で、沢山の行事が本当に楽しかった。十八名の絆を感じ、全部が忘れられない思い出です。担任としては「広い牧場で野放しクラス」のイメージでしたので、各先生方にはかなりご迷惑をおかけしましたが、それぞれが自分らしく過ごせたんじゃないかなと思います。周りがどうこうが、環境がどうこうではなく、自分の意志で決めたことは最後までチャレンジして欲しい。出会い、失敗、苦悩、すべてがみんなを更に成長させてくれるから。自分を信じてやってみよう。最後に、このクラスは私にとって宝物です。本当に最高でしたーありがとう！

八組、また違う日まで！

三年八組担任　澤本　優

三年間、検定勉強から頑張った！　時には、申し込んだけれど体調不良やインフルエンザ等で受検できなくて悔しい思いをしたこともありました。お化け屋敷の段ボール運びや、中央商店の準備、冷やしパインの販売、体育祭の新入生歓迎遠足、二年の時のインターンシップ、三年のダンス発表会。どの行事にも、時間が無い中で力を合わせ頑張りました。卒業アルバムの写真を熊本城で撮影したあの日、あまりの暑さに、学校に帰り着いたあとの教室で食べていたアイスは美味しそうでした。ダンス発表会がうまくいったので、これまた教室で食べたピザも美味しかった！　そしてそれぞれの受験。自分の将来のために真剣に考え、合格を目指して粘り強く努力し、無事進路決定に繋げることができました。

卒業後は、できれば私よりも幸せに、強く長く生きて行って下さい。いつかおいしいお酒（今はまだダメですよ）を一緒に飲める日がくるといいですね。その時には高校生活での話や卒業後の話を沢山聞かせて下さい。楽しみにしています！

三年九組がノンフィクションだなんてさ。

三年九組担任　大田黒智子

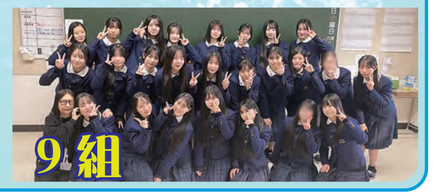
卒業おめでとう。看護師という夢に向かって走り続けた皆さんとの日々を思い、今の私の気持ちをMLKの曲を借りて伝えるなら、まさに「好きすぎて、滅。」です。

記録物に追われ、睡眠不足と緊張で挑んだ実習、専門用語（カタカナ!?）に苦戦した試験。逃げたい時や「いっさいがっさい投げ捨てても問題ない」と思う夜があったはず。それでも、投げ出すことなく実習や専門教科の学習に向き合い続け、文化祭（九組のオリジナリティあふれる企画爆誕）などの学校行事で見せた爆発的なエネルギーと団結力、弾ける笑顔は、私の「海馬をジャック」して離れません。

「八十億分の一の奇跡」の出会いと限界突破を目指した二十五人の姿は、私にとって最高の「ノンフィクション」であり、誇りです。

より専門的な看護の世界へと進み、迷う日もあるでしょう。しかし「ただ健やかに生きていてね。それだけで幸せ」と思いつつ、夢を叶えてほしいと願っている人が側にいることを忘れないでください。

二十五人の「タカラモノ」であるみんなを、「宇宙の果ての果てまで」ずっと推します。



さぁ今日も一日元気に

三年十組担任　矢守健太郎

みなさんご卒業おめでとうございます。

二年生の一学期の終わり。淡々と過ぎ去る私の毎日に転機が訪れました。十組生活の開始です。担任として何を伝えよう。何を教えれるだろうか。そんな事を考えていました。

結果としては、おそらく何も教えることができてません。あの時こうすれば…と文章を書きながら反省するばかりです。頼りない担任ですいません。

「反対に私は皆さんから大切なお事を教えてもらいました。

うでであれ中学三年の受験時に看護師になるという決断をしています。高校に入学して、勉強が不得意だろうが、不器用だろうが、患者さんとのおしゃべりが苦手であろうが、全員が夢を叶えるために一生懸命に努力していました。勉強には一切手を抜かず、実習では心が折れかけても元気を作り出し前向きに立ち向かっていく姿。生徒ではなく、一人の覚悟を決めた人として尊敬させられました。

そして、みなさんは頼もしい生徒でした。

ストレス・行事の過密スケジュール。みなさんはすべてをどうにかしてくれました。「うまくいくよ」「乗り越えるために」このクラスみんなが思ってくれていました。（私が苦手な）教員主導ではなく生徒主導で問題を解決できるみなさんの行動力と考え方に感心させられ、助けられ）ました。

楽しむことに一生懸命になる”学校行事でのみなさんの行動力。気合いの入り方に毎度何かの全国大会なのかと思わされました。結果、関わる行事すべてで優勝しています。目的に向かい団結する様子を見て、こんな高校生活を送りたかったと思わされました。

そんなみなさんも、今現は専攻科更に多くの専門教科の勉強を頑張っていると思います。でも、前向きに頑張ることのできる皆さんならば必ずできます。みなさんはできるナです。

最後に、みなさんの担任をさせてくれてありがとうございました。とても感謝しています。

さぁ、夢に向かって頑張りましょう！　どっこいしょ!!

卒業生に向けたメッセージ

第三学年主任　森　智也

ご卒業おめでとうございます！

学年主任として、卒業の日を共に迎えることを嬉しく思います。

君たちの高校生活は思い描いていた青春となったでしょうか？行事で見せた弾ける笑顔や進路や試験を前に静かに机に向かう背中、そして何気ない廊下での会話の中に、私は日々、君たち一人ひとりの確かな成長を感じながら過ごすことができました。これは同時に、「教師になってよかった！」と想起させてくれました。ありがとう。

毎月の委員長会議。始業式の時に「委員長に立候補しろ！」と言った私に、応えてくれた生徒たちの集まりでした。クラスのために考え、行動してくれ、学年の礎となりました。修学旅行。自分たちでルールを考え、全員で実行する。「食事のときに班で写真を撮る（先生たちも）」のルールは傑作でした！「やる」ルールを作るなんて！さらに「先生たちも」とは、シャレてました。0パークドームで初めて開催する最後の体育祭。綱引きや台風の目では団結力を発揮し見事に総合優勝!!歓喜の声がドーム中に響きわたったあの感動は忘れられません。ありがとう。

この学年は全員が授業出席日数を満たしました。昨年、私は遅刻者が多いので改善したい、と学年の先生方に投げかけました。先生たちの結論は、なぜ遅刻をしてはいけないのか、生徒にもう一度語ること。忘れることができない二〇二五年一月。保護者の皆様のご協力があり遅刻が激減。大人の真剣な想いが高校生を動かすと証明しました。ありがとう。

素直で真摯に学校を楽しむ君たちも、君たちのために楽しい学校生活にしようとする先生たちも、私の誇りです。

これから、君たちが格好良く羽ばたいていく姿を楽しみにしています。ありがとう。

卒業によせて

三学年委員長　栗秋賢和

お子さま方のご卒業、誠におめでとうございます。

三年間の高校生活は、日々の学習をはじめ、学校行事や部活動などを通して、多くの経験と成長の機会に恵まれた、かけがえのない時間であったことと存じます。

後援会三学年委員長として活動する中で、先生方が一人ひとりの生徒に真摯に向き合い、温かくご指導くださっていること、また保護者の皆さまの深いご理解とご協力によって、子どもたちが安心して学校生活を送ることができていることを、改めて実感いたしました。

思春期という多感な時期ならではの悩みや葛藤、さまざまな困難に直面しながらも、それぞれが自分なりに考え、乗り越え、前へ進んでいく姿は、私たち保護者に多くの感動と誇りを与えてくれました。

これからそれぞれの道へと歩み出す子どもたちが、この学び舎で得た学びや出会いを糧に、自分らしく未来を切り拓いていくことを心より願っております。

これまでご尽力くださいました先生方、ならびに関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。